

## 美濃帯南部坂祝セクションのトリアス紀層状チャートにおける岩相変化と放射虫化石

### Lithostratigraphy and radiolarian biostratigraphy of Triassic bedded chert of the Sakahogi section in the Mino Terrane, Japan

# 二階堂 崇 [1]; 松岡 篤 [2]

# Takashi Nikaido[1]; Atsushi Matsuoka[2]

[1] 新潟大・院・自然科学; [2] 新潟大・理・地質科学

[1] Grad. Sch. Sci. & Tech., Niigata Univ.; [2] Dept.Geology, Niigata Univ

岐阜県・愛知県の木曾川流域には、珪質粘土岩-チャートユニットがよく露出する。坂祝セクションでは、この岩相ユニットは美濃帯南部のCH-2に相当し、西側上位を示す。72mの層位範囲で1:10の岩相柱状図を作成し、その岩相から下・中・上部の3つに分けた。放射虫検出のための試料は1mないしそれ以下の間隔で採取し、その4分の3の層位範囲(約54m)が検出された群集によってトリアス紀に対比される。

下部21mの層位範囲は、赤色で層理の明瞭な層状チャートを主体とする。本層位範囲は *Triassocampe coronata*, *T. deweveri*, *Pseudostylosphaera japonica*, *Spine A2*, *Yeharaia elegans*, *Tritortis kretaensis*, *Muelleritortis cochleata*, *Spongoserula dehli* および *Capnuchosphaera* sp. の産出で特徴づけられる。この群集は late Anisian から early Carnian (TR 2C - 5A) に対比される。

中部22mの層位範囲では、層理が癒着した緑灰色のチャートが卓越する。また、ストライプ構造をもつチャートが集中しており、この後造は側方へ広く追跡が可能である。本層位範囲の最下部と最上部に珪質粘土岩層が2層準あり、それぞれCS-1, CS-2と呼ばれる。中部では *Spongoserula dehli* や *Capnodoce anapetes*, *C. sarisa*, *Poulpus carcharus*, *Trialatus robustus*, *Lysemelas olbia*, *Praemesosaturnalis multidentatus* が産出し、early Carnian から early Norian (TR 5A - 6B) に対比される。

上部の層位範囲12mでは、層理の明瞭な赤色層状チャートと層理の癒着した緑灰色のチャートが交互に累重する。上部の上限はCS-3と呼ばれる珪質粘土岩層である。*Capnuchosphaera anapetes* や *Trialatus robustus*, *Lysemelas olbia*, *Praemesosaturnalis multidentatus*, *P. pseudokahleri*, *P. heilongjiangensis*, *Skirt F* が産出した。この群集は early Norian から early Rhaetian (TR 6B - 8C) に対比される。

記載された岩相と検出された放射虫化石は、坂祝セクションにおける層序の連続性を支持する。その連続性から、このセクションはトリアス紀の古海洋環境を論ずるのに適している。放射虫化石帯の厚さと年代によれば、堆積速度は0.8~2.9mm/k.y.の値を示し、middle Carnian (TR 5B) と late Norian (TR 8A) でとくに高い。